

由利本荘市政平成20年12月定例議会

雑 感

毎日のように、世界規模の自動車会社や関連産業の悪化そして正規社員、派遣社員の仕事場更には済む場所の寮も出されるなど惨憺たる報道状況でありますことは周知の通りであります、これら世界経済、国内経済社会状況を背景に質問をさせていただきます。

先に、複合文化施設の建設に対して21年度分予算の10億1千万円を前倒しして今回複合施設建設工事を56億3千850万円で仮契約をした承認案件が出されております。

さて私は、委員長の報告に対して四つの質問を致します。

第一点は10億円余の予算計上は特殊設備工事の分であると説明を受けております、なればその内容は、大きくは舞台機構、照明、舞台音響、映像としております。

今回その特殊設備工事費が56億3千850万円の内いくらだったのかをおたずね致します。

第二点は その特殊設備工事はどのような発注の方法であった

のか、20年度の計画では、特殊設備工事分を除き本体建設工事費計で約52億円の予算計上であり、内訳は交付金が1億2千605万円、合併特例債が35億5千555万円、一般財源が5億70万円でありました。

9億7千万円の合併特例債を前倒しし、上積みされた訳であります、という事は当然特殊設備工事は、何と何で何がどの位の予算見積もりと言うことで10億1,000万円がはじき出されたものと思います。特殊設備工事をまさか一括してどーんと頼んだ訳では無いと思います。

第三点は これまで数回に亘り各地域の類似施設を調査研究に当たられておる訳ですが、現に先般11月11日に今回の契約を前提にしての市執行部とお揃いで事例調査視察と言うことで大船渡市のリアスホール等に研修視察しております、そしてその約二週間後21日に入札を致し三社が辞退し二社が予定価格以上の入札をし結局残り一社戸田建設東北支店が落札致しております。

由利本荘市と大船渡市は、設計者、本体建築工事については同一の業者が落札、特殊設備についてもそれぞれ三社から四社が

それぞれ特殊設備工事を区分しての入札を行って発注しております。

その額も単純に当市との比較では5億円・半額も安く落札している事を鑑みると調査視察がどのような内容であったのか、最も新しく視察した大船渡市を例にとりますと大船渡市は、
市民文化会館舞台照明備品設備工事 2, 130万円

舞台照明設備工事1億0, 290万円

舞台機構備品設置工事 6, 850万円

舞台機構設備工事1億7, 540万円

舞台音響・映像設備工事1億5, 800万円

舞台音響・映像備品設置工事 2, 380万円

合計額 5億4, 990万円

の6つの区分をして綿密に詳細に入札、応札、落札しているの
であります。

本体価格については、これも単純比較ですが、大船渡市は29億6000万円で落札、由利本荘市は35億6千万で、同じ1,100席であるにも関わらず約6億円も違います。

第四点は 今後税金が払える生活ができるか否かの大変な市民の暮らしの置かれた環境である、この大金が果たして効率的に使用されるかどうかは全市民が気のおけない所と思います。この不確実な高額な建設に委員会では高いなどの話が出なかったのか。

以下の数字は、私が当局に委員長質疑を行う事を連絡したことで、その直前に出された資料です。

本体 3, 565, 000, 000

空調 405, 000, 000

給排水 205, 000, 000

電気 425, 000, 000

特殊設備 1, 000, 000, 000

予算そのままの金額で発注しております。

討 論

由利組合病院跡地整備特別委員会の委員長の報告は、原案の通り可決すべきものとしておりますが、私は反対の立場から討論

を行います。このような時勢柄我々議会、執行部共々ももっとも心して予算の執行を見つめて行かなければならないと存じます。

一口に申して10億円というお金の重み価値をどのように考えておられるのでしょうか行政改革、あるいは財政難という言葉が日常茶飯事使われております。

国民、市民にも財政難や仕事が無いという言葉は何よりも一番重苦しく響く言葉として定着しているのでは無いかと存じます。市の財政は勿論家庭の事情も同一でございます。

行政は、庁内、各総合支所に対しても何をやるにしても金がない金が無い、しかし大きな事業は見直しどころか計画している事業だと言うことで前倒しまでして執行しております。

ならば少しでも何とかしよう、この迫り来た経済社会事情に敏感に対応する・反応するその姿勢が感じられないのであります。住民の心のよりどころとする色々な分野まで削減削減あたかも何でも削減すれば、それが行政改革なののでしょうか、例えば大きな事業を縮小、見直しをし、あるいは道路の区画を28メートルでは無く26メートルにし2メートルを狭くしたらとか、

一時控えた場合あるいは繰り延べた場合など、どの位のメリハリのある行政執行が可能になるのかなど試算した事があるでしょうか、今やらなければやれなくなる、なんとしてでもと言うような拙速な事業執行であるからこのような簡単な事さえ順序を踏めなかったのではないかと感じるのは私だけでありましようか

これだけ調査視察を重ねたのなら、特殊設備の前倒し分だけでも詳細な調査を致し、少しでも良くて安い仕事をしていただき、他の良いところは吸収して市民の財産の目減りを防ぎ将来への負担を軽くする努力が必要と存じます。

そのような話し合いも無く、高額な事業を次々と執行されてまいったのかと思いますとあまりにも啞然としてしまいます。競争入札をして10億円の予算からすると約5億円以上の開きがございます、そのままの額とするとこれまでの委員会で・調査、視察研修では特殊設備は何であるかの確認や価格も話し合わず、当局の提案報告を聞いてきただけと言うことのようにです、よって私はこの委員長報告には反対致します。

※しかし、内容を把握していない多人数会派の単なる行政提

案を通すだけの賛成多数議員で委員長報告のまま可決されました。